

♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年5月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

さわやかで気持ちの良い季節になりましたね！ゴールデンウィーク中も毎日公演開催、今月も合計34公演で皆様をお待ちしております。そして6月末期限のプレゼントチケットをまだお手元にお持ちのお客様、5月のコンサートにぜひご利用くださいね♪
(文責:宗次ホール企画担当 廣田政子)

ある意味の重要性に気付き始め、最終的には音符の背後に隠された意味をつかむことが出来て初めて、作曲家が表現したかった境地にたどり着ける、と言葉を選んでお話されます。行間を読む、繊細さや想像力、でしょうか…。

優雅ではなく、美しい世界…
吉田 恭子 ヴァイオリンリサイタル
5月15日(日)14:00開演 4,000円 [指定]



8日の島田さんの1週間後には吉田恭子さんのヴァイオリンリサイタル！贅沢な日曜日が続きます。吉田さんは3月23日にニューアルバムをリリースされたばかりで、今回のリサイタルもそのアルバムに収録された珠玉の名作たちから数曲、そしてプロコフィエフのヴァイオリンソナタ第1番などを披露してくださいませ。 “ヴァイオリンという楽器を知り尽くした者にしか表現できない、優雅ではなく、美しい世界”と彼女が語る今回のプログラム。ウィルヘルミヤクライスラーという往年の巨匠たちが自らの超絶技巧を魅せるために手がけた編曲作品が並びます。

近年は若い子供達への教育にも力を入れている吉田さん。弦楽器のための作品は誰かと共に演奏し、一緒に作り上げていくものが多いことから、“周りの音を聴く力や、言葉では言い表せない、人とのコミュニケーション能力がとても重要”とお話されていました。そして誰かと一緒に笑ったり食事をしたり…という感覚や喜び、そして多くの作曲家がインスピレーションを受けている自然の美しさを楽しむことも大切になさっています。そんな彼女の美学がぎゅーと詰まった演奏会になりそうです。 チャリティーシートは既に完売ですが、お席はまだございます！お問い合わせください♪

オーボエの神が宗次ホールへ！！
モーリス・ブルグ／若尾 圭介 オーボエ
須田 祥子 ヴィオラ／広瀬 悦子 ピアノ
5月30日(月)18:45開演 4,500円(学生2,700円)[指定]



モーリス・ブルグ、フランスが生んだオーボエ会の重鎮が宗次ホールで初来演です！オーボエ界でこの方の名前を知らない人は恐らくいないでしょう。ホリガーと並ぶ世界的名手、そしてフランソワ・ルルー、アルブレヒト・マイヤーといった今世界で活躍するオーボエ奏者の多くがブルグ氏に師事しています。3年に一度軽井沢で開催される国際オーボエコンクールで審査員を務めておられるブルグ氏。9歳の頃にラジオでオーボエ演奏を偶然聴き、“心がその音のとりにこになった”そう。今年77歳になった巨匠は、「年を重ねるほど演奏から無駄なものがはぎ取られてきた」と。音符にばかり気を取っていた若い頃と変わり、次第に音符の意味や音符と音符の間に



←ボストンの若尾さん宅にて
ブルグ氏と若尾氏
(若尾さんブログより)

一方、ボストン響で準首席奏者として25年間活躍する若尾氏の元にも、勉強したいという日本人留学生がたくさん渡米しています。既にキャリアを築いた音楽家である若尾さんが中学生の頃からの夢だった、とブルグ氏にレッスンを受けに行くのだからますます。「あのレッスンを思い出すだけで興奮が蘇る。50歳を越えて、また素晴らしい生涯のメンターに出会えた」とお話されています。

今回は名手二人に、愛知県ご出身でアルゲリッチ国際コンクール優勝など国内外で活躍するピアニストの広瀬悦子さんと、現在東京フィル首席奏者としてご活躍され、先日は「報道ステーション」で披露された生演奏が話題になったヴィオラの須田祥子さんをお迎えしての公演です。大変貴重な演奏会です。ぜひ、巨匠の実演に触れてみてください！

お得なスイーツタイムコンサート！
(料金・時間は一律です)
13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定
プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能
★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定
スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

シフ、プレトニョフと並ぶ名手、仏芸術文化勲章受賞者
5月20日(金)パスカル・ドウヴァイヨン ピアノ



昨年は夫人である村田理夏子さんとのピアノデュオコンサートでスイーツタイムにご出演頂いたドウヴァイヨン氏。今回はソロコンサートです！チラシにはプログラムをコース料理に例えたオシャレなメッセージをくださったドウヴァイヨンさんですが、この日本で20年ぶりとなるソロステージに対する並々ならぬ意気込みが、その選曲から感じられます。繊細さと響きのコントロールで魅せるドビュッシーの前奏曲に始まり、シューベルト自身が弾きこなせず、「こんな曲は悪魔にでも弾かせろ！」と言ったという難曲さすらい人幻想曲、そしてラストには作曲家が残した唯一のソナタでありその

怒涛の勢い、感情、悪魔的魅力、壮大なロマンティズムがラストまで駆け抜ける、リストの短調ソナタ。スイーツタイムで、さすがのプログラムだと思いませんか。

受賞歴華々しい名手でありながら、クラシンの笑顔には人懐っこそうで温厚なお人柄が溢れ出ているようです。「私は前世は日本人だったんだよ」と仰るほどの日本通で、和食と日本酒に目がなく、勤勉さと人の和を大切に、大変謙虚な方。以前お見かけしたときは、「吉田かばん」を斜めに下げて、大変礼儀正しい紳士だったことをよく覚えてます。

数々の華やかな受賞歴があるといえども、クラシックの演奏家として常に一線に立ち、有名音楽院などで教鞭をとるというのは並大抵のことではありません。自分に自信を失いかけたとき、演奏をする喜びまで失ってしまわないよう、彼は“人間の成長の手段のひとつとして音楽があるんだ。”と再認識し、前に進む努力をしたといいます。

最後にフランスのピアノズムについて語ったドウヴァイヨン氏の言葉から。「ドビュッシーは、撫でるような柔らかなタッチが必要。ラヴェルが石版画とすればドビュッシーは水彩画でしょうか。…ドイツでは構成や分析が重要視されますが、フランスでは音楽をどのように楽しめるか、生かすかというインスピレーションが大切にされます。私はその両方のバランスをうまくとりたい。」そのバランスの匙加減も、すべて彼のセンスの成せる技でしょう。待ちきれない演奏会です！

欧米で活躍する知られざる名手！

5月31日(火) 橋本 京子 ピアノ



前述のモーリス・ブルグ氏を始め、ミッシェル・マイスキー氏や今井信子氏など、錚々たる顔ぶれと共演を重ねてきた知られざる名ピアニスト、橋本京子さん。先のショパン国際コンクールで第2位及びソナタ賞を受賞し話題となったカナダのシャルル・リシャール＝アムラン君は橋本さんが教鞭を執るカナダの名門校マギル大学卒であり、彼は実際橋本氏に室内楽を師事していました。

学歴も去ることながら、これまでの演奏活動は25カ国、小林愛実さんや先日浜松国際コンクールで優勝したガジェヴ氏も過去ファイナリストに残って話題になったジーナ・バックアウアー国際ピアノコンクールでも審査員を務めておられます。

1978年以来、長きにわたり欧米で活躍してきた演奏家なので、日本での演奏会はもはや「来日」という感覚だそう。78年といえば38年前…国外に移住や旅行する日本人も今程多くなく、インターネット等で簡単に情報も入らなかった時代。そんな時代に一人で欧米へ渡り、何十年にも渡ってオランダ、カナダ、チェコやポーランドといった国々で演奏家として活躍し、教鞭を執り、生き抜いていくというのは並大抵の強さではありません。彼女の演奏にはそんな強さを感じます。強い意志の間に垣間見えるからこそ引き立つ、感傷ややさしさ。

今回はモーツァルトの幻想曲ハ短調に、「ぶらあぼ」でも「各曲の描き分けが見事…」と大絶賛されたブラームス16のワルツ、最後はシューベルトの即興曲集D935全4曲という精神性深い作品群で聴かせてくださいます。

大人気！大人の音楽学校シリーズ

5月14日(土) 青年モーツァルト 愛と絶望の日々

松本 大輔(お話) 五島 史登(ピアノ) 成田 七香(ソプラノ)
西岡 あかね(フルート) 平光 真彌(ヴァイオリン)
新谷 歌(ヴィオラ) 高橋 弘治(チェロ)

「新しい喜びは、新しい苦痛をもたらす」…モーツァルトの言葉ですが、今回の大人の音楽学校シリーズでは、モーツァルト1777年からの旅と苦悩の日々に焦点をあて、その間に生み出された名曲たちをお聴き頂きながら、天才の人生をわかりやすく学んで頂きます。

ザルツブルクに見切りをつけ、活躍の場を求めて母と旅立った西

方の地。結果的にはどこにも相手にしてもらえず、パリでは最愛の母が…。「旅をしない音楽家は不幸だ」…これも有名なモーツァルトの言葉ですが、たくさんの人や言語、芸術に触れ、それは彼の感性にも大きな影響を与えたはず。その一方で辛い出来事に見舞われるたび、彼は何を考えていたのでしょうか。



音楽の教科書ではむずかしく思えた内容を、この音楽学校シリーズではとてもたのしく学ぶことができると毎回大好評です。天才もひとりの人間で、さまざまなことに頭を悩ませ、苦悩の日々を送っていたことを知れば、その作品を聴くときも更に興味深くなるはず。

「ともあれ、われわれはここからまだ何かを学び取ることが出来る！」

…(モーツァルト)我々が天才の生きた道から学べることは何でしょうか。チャリティーシートは既に完売、自由席も残り僅かとなってきました！どうぞお早目に！

腹をくくった第一線プレイヤー達

5月23日(月) 関西弦楽四重奏団

林 七奈 ヴァイオリン(大阪交響楽団コンサートマスター)
田村 安祐美 ヴァイオリン(元大阪交響楽団コンサートマスター)
小峰 航一 ヴィオラ(京都市交響楽団首席奏者)
上森 祥平 チェロ(京都府文化賞奨励賞受賞)



ソリストやコンサートマスターとしてそれぞれに第一線で活躍する奏者が溢れんばかりの情熱をもって京都の“カフェ・モンタージュ”を拠点に結成されたのが2012年。日経新聞によると、なんでもこのカフェ、毎月10日前後飲食を楽しみながらクラシックの生演奏が楽しめるとのこと。この関西弦楽四重奏団も最初は同店だけで演奏していたけれど、昨年大阪フェニックスホールで公式なデビューを果たして以来、今では

数々の有力音楽ホールからの出演依頼が絶えないそう。

室内楽の中でも合奏が難しく、また市場的にはなかなか成り立ちづらい弦楽四重奏。それでも「音楽家として避けて通れない。覚悟はできている。」と活動費は自腹を切り、理想の室内楽を追求する4人。(大阪日日新聞より)その情熱と確かな腕で2014年大阪文化祭奨励賞、翌年には咲くやこの花賞受賞と、その実力は早くも知れ渡っています。

今回の公演では、3月に発売されたばかりのデビューCD、『グラスノフ&ボロディン』から親しみやすいロシア作品を集めた選曲で。ヴァイオリンの林さんはなんとこの時車いすを押しての収録だったそうで、まさに血と汗と涙の結晶。昨年の大好評に続き、再びの宗次公演！進化を続ける実力派集団の演奏、ぜひお聞き逃さないように♪



CD収録中のメンバー(上森さんのブログより)↑

チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ 052-265-1718